連絡先：那須ＹＭＣＡ　〒320-0041　宇都宮市松原 2-7-42　（とちぎ YMCA 内）　TEL　028-624-2546　　FAX　028-624-2489

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995

2014～2015年度　No.185

６月　月報

那須クラブ会長　主題

心をあわせて　もう一歩

那須ワイズメンズクラブ

５例会　２０１５年５月２２日　於：西那須野教会

２０１４～２０１５年度　主題

国際会長：（ＩＰ）　Isaac Palathinkal（インド）
「言葉より行動を」

アジア地域会長：（ＡＰ）　岡野　泰和　（大阪土佐堀）
「未来を始めよう、今すぐに」

東日本区理事：（ＲＤ）田中　博之（東京）
「誇りと喜びを持って」

北東部長：大久保　知宏（宇都宮）
「一体となって一歩前に」－楽しく、楽しく、楽しくー

クラブ役員　事務局

会　長　：田　村　修　也
副会長　：村　田　　榮
　　河　野　順　子
書　記　：荒　井　浩　元
会　計　：鈴　木　保　江
担当主事：荒　井　浩　元
ブリテン：田　村・村　田

５月例会データー（出席率：８３％）

在　籍　者　　６名
例会出席者　５名　メネット　２名
ビジター　２名

今月の聖句

「新しい歌を主に向って歌え。主は驚くべき御業を成し遂げられた。」
詩篇９８：１

東京目黒クラブ　　那須クラブ

６月　Happy　Birthday

なし　　なし

６月強調月間　　評価　　理事：田中博之(東京クラブ)

多くの方のお支え、励ましをいただき、誇りと喜びをもって１年間、東日本区理事の務めを果たすことができたことに感謝申し上げます。　今期、私自身が心がけることとして、「選択と集中」、「伝統革新」そして「PDCA」を掲げ、東日本区の皆さまにもお奨めして参りました。このことが各クラブ、部の活性化の一助になったとしたら幸いです。

東日本区としては、この１年間で、計画どおりできたこともありますが、一方で不十分だった取り組もあります。できなかったことはその原因を究め、さらに取り組みが望まれることは、次期にバトン渡すとともに、トロイカの一員として最大限サポートして参りたいと思います。

東京ベイサイドクラブのチャーターナイトで国際協会加盟認証状をお渡しすることができたこと、多のクラブの入会式に立ち会うことができたことは理事として大きな喜びでありました。しかし、年度で２つのクラブが解散となり、また、各クラブでの退会予定者も報告されています。理事として、東本区としてもっとサポートできなかったか残念でなりません。解散、退会には必ず原因と予兆があります。各部での、各クラブでの会員維持、そして新入会、新クラブ設立へのお取り組みを強めていただように切にお願いいたします。

今月は「評価」の強調月間です。この１年間の皆さんのお取り組みを振り返っていただき、次期に引継がき継がれ、豊かな実りに繋がることをお祈りいたします。

巻　頭　言

会長　田村修也

わたしは年を重ね、老人となった。あなたたちの神、主があなたたちのために、これらすべての国々に行われたことを、ことごとく、あなたたちは見てきた。　（ヨシュア記２３章２－３節）

人は年を取ると自分の過去を振り返るものです。そこには善きにつけ、悪しきにつけさまざまな思いが甦ります。そこには人生の中で得た幸いを喜び、失ったことへの悲しみ、かなわなかったことへの悔しさがありましょう。多くの人は自分の過去を振り返って、何を得たか、何を得なかったかを考えるものです。とはいえ、これらの振り返りは、すべて己の目から見た自分の過去です。しかしヨシュアは自分の目をもって過去を見ませんでした。彼は神の目を借りて過去を見なさいと言っているのです。己の目をもって見る過去と神の目を借りてみる過去は、様相が一変します。そこには何を得たか、何を得なかったかの業績の評価ではありません。すべてに神が働いてくださったこと、与えられた恵みへの感謝であります。ヨシュアは、それを「あなたたちは見てきた」と言います。はっきり見えるでしょうと言っているのです。年を取り、振り返って、自分のしてきたことを見るのではなく、神の働きが見えるなら、その人生はどのようであってもよしとされた人生であります。　「３６５日の聖書」賀来周一著から

私は１９４０年生まれですから今年７５歳を迎えました。そうです、やっと後期高齢者の仲間に入ることが出来ました。世紀で言いますと４分の３世紀生きてくることが出来ました。私もやっと人生の第３紀をスタートした気分です。ワイズ年齢は３６歳、栃木県にワイズがチャーターされた時の思い出は今でも鮮やかで、宇都宮南のグランドホテルで家族揃って参加しました。那須ワイズ年齢は、今年３月１４日には那須ワイズの２０周年記念感謝例会を多くのワイズゲスト、リーダーと共に迎えることが出来たので、２０歳。　那須ワイズの２０年の歩みは同じ西那須野教会の一木ワイズが中核的に活動し、一木ワイズが北東部長、私が書記と時がありました。当時ユースボランティアリーダーズフォーラムは各部主催でした。その年は北東部主催年度でしたので、二人して山中湖畔で富士山を眺めながらプログラムを進めたことも懐かしいです。一木ワイズが召された後を引き継いで今日にいたっていますが、よくまあ今日まで継続してくることが出来たと感謝しています。賀来先生の言うように、振り返って見ますと「すべてに神が働いてくださったこと、与えられた恵みへの感謝」としか言いようがありません。

７月からはまた新たな年度を歩み始めます。２０年の歩みを支え導いて下さった主が、この地でなくては出来ない奉仕の活動を拓いていって下さることを信じて、生涯ワイズを望みながら歩んで行きたいと願っています。

５月例会（塩谷キャンプ場を語る）

記録：荒井　浩元

日時：５月２２日(金)午後６時３０分～午後９時
場所：日本基督教団西那須野教会
参加者：田村会長、河野、原田、村田、荒井
メネット：田村、原田。ゲスト：西那須野教会潘

炯旭牧師ご夫妻、合計：９名

５月例会では、塩谷町にある「とちぎＹＭＣＡ塩谷キャンプ場」開設の経緯と今後の活用について、原田ワイズの講話を頂きました。

「とちぎＹＭＣＡ塩谷キャンプ場」は１９８３年にとちぎＹＭＣＡ創立５周年記念として開設されました。当初、創立５周年記念としてどのような周年事業を行うか検討した際に、タイのワークキャンプ派遣の基金設立と野外キャンプ場開設の２つの案が出ました。様々な意見が出される中で、ＹＭＣＡに来る子どもたちに栃木県の自然を味わって欲しい、自然の中で様々な体験をしてほしいという願いからキャンプ場開設へと決まっていきました。　当時、塩谷町にある小さな水力発電所の閉鎖にあたり、土地が塩谷町に払い下げることが決定しました。その水力発電所付近の自然はとても豊かで、ＹＭＣＡキャンプ場の候補としてとても最適でした。その払い下げの話しを聞き、塩谷町役場に伺い、３０万円で土地を買取りました。とちぎＹＭＣＡ設立以来、「とちぎＹＭＣＡ塩谷キャンプ場」はとちぎＹＭＣＡが初めて持った資産でもあります。その時からのキャンプ場の歴史がスタートしました。　キャンプ場開設以降、とちぎＹＭＣＡキャンププログラムだけではなく、ユースリーダーの憩いの場所となったり、近隣教会からのキャンプとして使用されたり、国際交流の場となっていきました。また、キャンプ場は「何にも無いけれども、何でもできる！」と言われるほど、子どもたちにとって様々な体験を得ることができました。　しかし、２０１１年３月１１日に起きた東日本大震災を機に、状況は一変しました。東日本大震災によって起きた事故である福島原発事故により、「放射線」という言葉がキャンプ場を襲いました。放射線の不安や疑問から、現在に至るまでキャンプ場は使われなくなりました。今年の春、YMCA 職員の藤生と佐藤がキャンプ場の様子を見に行った際に、放射線も測定していきました。放射線の値は、０．２前後であり、震災直後より大分落ち着き始めたことが分かりました。そこで、もう一度キャンプ場を盛り上げていこうという思いから、５月のゴールデンウィークにキャンプ場を芝刈りしたりするワークを行うこととなりました。ワークの日には、職員だけではなく、キャンプ場に愛着を持つリーダーＯＢＯＧも駆けつけ、とても有意義なワークとなりました。そのワークをきっかけに、キャンプ場を見つめ直し、今後どのように活用していくか考えていこうと原田ワイズは講話で開設から現在までの経緯と共に、提案がなされました。　原田ワイズの講話が終わったあと、キャンプ場にまつわる思い出や、今後の展望や期待など例会参加者のみなさんと共有していきました。今回の例会は、那須ワイズメンズクラブと那須ＹＭＣＡのミッションの一つとして塩谷キャンプ場があるということを再認識できた素晴らしい例会となりました。

５月役員会報告

日　時：５月１５日（金）１８：３０～
場　所：ココス西那須野乃木店
出席者：田村会長、河野副会長、村田副会長、荒井書記、田村メネット

協議事項

１．５月例会について
　馬頭農村塾での外例会を予定していたが、当日予定があってできないとのこと。５月２２（金）に西那須野教会で「塩谷キャンプ場の開設の経緯と今後の活用について」原田メンよりの提案を受け協議することにした。

２．６月例会の件
　６月１９日(金)午後６時３０分～。西那須野教会にて、とちぎＹＭＣＡ報告会を行う。内容は、那須ＹＭＣＡの活動報告を行う。

３．那須街道赤松林の下草狩りの件
　皆さんの都合のいい月曜日午前８時より行う。

４．第１８回東日本区大会出席の件
　２０１５年６月６日(土)～７日(日)に厚木市文化会館にて開催。村田メン・メネットが出席。

５．６月役員会と例会の件
　６月５日(金)午後６時３０分～、ココス西那須野乃木店。

６．副会計設置の件
　荒井書記を副会計とする。

７．東京目黒クラブとの交流会の件
　東京目黒クラブが２０１５年８月２６日(水)～２８日(金)の２泊３日で「北区しらかば荘」での移動例会を開催。那須クラブとして、２７日(木)の夜に１泊で交流会を行う。なお、当日の昼の間に、田村会長による「那須疎水」を案内・説明を行う。

８．ブリテンの内容について

６月号より、アジア学院のコーナーを設置する。原稿依頼を理事長又は、校長に依頼する。

今後の予定

・６月例会（とちぎＹＭＣＡ活動報告会）
日時：６月１９日（金）午前６時３０分～
場所：西那須野教会
内容：那須ＹＭＣＡ活動報告
　　藤生　強主事による「県北での活動展開」
　　について語っていただき、協議を行います。
＊詳細については５月役員会で協議。

・６月役員会
日時：６月５日（金）午後６時３０分～
場所：ココス西那須野乃木店

・東日本区大会
日時：６月６日(土)～７日(日)
場所：厚木市文化会館他

・那須街道赤松林の植樹したところの下草狩り
日程は未定、後日連絡。

旧西那須野（那須西原）の緑と水（２６回）

田村修也

安政３年(１８５６、この年松陰松下村塾主宰、長崎奉行隠れキリシタン検挙、浦上三番崩れ始まる)、一郎平２１才のとき、父宗保は７１才を以て永逝した。この死に臨み一郎平に対して、必ず父の志をつぎ、広瀬用水を完成し、金屋村外数村の窮民救済の目的を達成せよと遺言した。爾来一郎平は、父の遺命を達成せんとする志は、寸時も忘れなかった。　元治元年(１８６４、蛤御門の変、４国連合艦隊下関攻撃、１時間で砲台破壊)、一郎平２６才の時、大旱魃がこの地を襲った。農民の困苦は見るに忍びないものがあった。　ここに、一郎平の奮起するときがきた。彼はまだ３０才にも達せぬ、白面の一青年であったが、その熱意は、地方の豪農広瀬久兵衛を動かし、その出資を仰ぎ、一身を投げ出して、この難事業と取り組んだ。前三回も失敗している程の難工事であるから、振り返ってみると、その困難は想像の外であった。第一土質軟弱のため、多数のトンネルは、掘っても掘っても崩壊し、従って、経費は予想以上、幾倍も要する。流石の久兵衛も、力尽きる始末に、彼は自己の資産は悉く投げ出して、住むに家なきまでになった。資金調達の行違いから、二回も牢屋にぶち込まれた事もあった。　かような艱難辛苦の末、工事漸く成功に近づいたが、資金難のために進退全く窮まるに至った。幸に、明治維新の大改革が行われて、一郎平の事業も明治政府の認めるところとなり、その援助を得て、遂に成功を見るに至った。　ここにおいて、毎年水不足になやまされた村々は、灌漑用水は豊富になり、新田は次から次へと開発され、農民の生活は歳と共に豊かになった。一郎平の事業は、地方農村の感謝の的となり、銅像がたてられ、記念碑がたち、報恩会が設けられ、「広瀬井手と南一郎平」という記念出版ができて、その功績を不朽に伝えようとしている。井手とは九州地方の方言で、用水堀のことである。　その一郎平の人格と手腕とは、当時その地方の県令であった、松方正義の認めるところとなり、松方が、中央政府に地位を占めるに及び、一郎平を起用して、内務省の一属僚とし、主として水利開拓土木等の事業に、その才能を振るわせたのである。　一郎平の関係した事業中、特に偉大なものは福島県安積疎水である。次はわが那須疎水である。明治１８年、わが那須疎水起工の頃には、累進して、官は内務権少書記官で、内務省疎水課長をつとめていた。　一郎平の関係した事業は、前述の外枚挙に尽ない程である。彼は寡欲活淡、財を積み子孫のために美田を買う体の人物ではなく、飽くまで己を捨てて、他人に奉公する人であった。彼は、父母の感化もあって、若いときから宗教心が厚かったが、明治２３年６月、大いに感ずるところがあって、基督教に入信し、生を終わるまでその信仰を堅持して変わらなかった。以上が田嶋董著の「那須疎水」からの抜粋であります。また年号記載の後に括弧書きでその年に起きた事件等を記載して時代的な背景が多少とも分かるようにしました。　私は２０１０年、西那須野の開拓史研究会の「石ぐら会」主催の公開講座「開拓と信仰の姿―開拓と教会」のテーマで講演を依頼されました。その際に大分県宇佐市の教育委員会に照会して「疎水の父１００年の夢―南一郎平の世界」という出版物を送って貰いました。その他数点の資料から南一郎平についても話をいたしました。またの機会はないと思いますので、前述では触れられていない分を記載しておきます。彼は、不思議な導きによって、明治２３年６月、東京本郷区菊坂の本郷教会において洗礼を受け、基督教に入信しました。実に田嶋彌三郎が、群馬県島村から、那須野が原に移住したのと同年であります。彼は如何なる経緯によって導かれたのか。

彼の郷里には、早く、既に福音が伝えられ、彼の親戚、知人にも幾人か基督教徒がおりました。彼が広瀬井手での水利事業で悪戦苦闘していた時、その片腕となって辛苦を共にした都留忠左衛門（後に音平と改名）の長子喜一と、その弟仙次も共に信仰に入り、仙次は人も知る有力な牧師となって、一郎平在世中、本郷教会の牧師を勤めました。 また一郎平の三男泰作は京都同志社に学び、新島襄の感化を受けて入信し、一郎平の妻志都子は性来の賢夫人でありましたが、一郎平に先立つこと２年、明治２１年に入信し、その麗しい性格は、一層の光を放つようになり、これが一郎平を信仰に導く最大の力であったと言われています。入信後の彼は、本郷教会の忠実な一信徒として、大正８年８４歳の高齢で天に召されました。彼の愛唱賛美歌は当時の３０６番（主よ、みもとに近づかん）でした。　このように、私たちの那須野が原開拓に生命を与えた那須疎水と基督教との不思議な関係は、ただ偶然として見過ごしてしまうことが出来ないものがあります。一郎平さんは、モーセのように、見えない御手に導かれて、委ねられた荒れ野に水を引き、荒れ地を「乳と蜜の流れる」豊穣の大地へと切り開いてゆくという、困難な大任を十分に果たして、走るべき馳せ場を走り抜いて、天に凱旋していった忠実な、そして偉大な信仰者であったのでした。（以下次号）

ＹＭＣＡ報告

【那須ＹＭＣＡユースリーダー新入生歓迎ＢＢＱを行いました！】

５月９日（土）にサタデークラブの活動後に、鳥野目河川公園オートキャンプ場にて、那須ＹＭＣＡユースリーダー新入生歓迎バーベキューを行いました。そこに参加してくれた新入生リーダーはなんと約９０名！バーベキューサイト６区画を貸し切っての歓迎会となりました。先輩リーダーによるアイスブレイクや、学生ならではの大学生活相談、マシュマロ焼きなど、バーベキューだけではない楽しい時間を過ごすことができました。今回参加してくれた約９０名の新入生が１人でも多くＹＭＣＡのファンとなっていければと思います。

【世界一大きな授業を実施しました！】

５月２１日（木）及び２８日（木）の二日間、西那須野幼稚園学童クラブにて「世界一大きな授業」を職員の荒井が講師として実施いたしました。「世界一大きな授業」とは、４月２６日～５月３１日の約１ヶ月の間に世界１００か国以上の子どもたちと一緒に「教育」について考える授業をしようという全世界で実施されているイベントで、日本では教育協力ＮＧＯネットワークが主催しています。授業の内容は、世界の子どもたちの教育の現状（学校に通えない子どもたちはどれくらいいるか？字を読めないということはどういうことか？）を実際体験しながら学んでいく参加型のワークショップとなっています。また、授業の最後には、ピースブックという絵本を読んで「どんなときに平和だなって感じるかな？」と問いかけをしました。授業を行っていく中で、子どもたちの反応はとても純粋で私たちの心を打たれるようなものばかりでした。「字が読めるってすごいんだね！」「お友だちと喧嘩して仲直りしたときに平和だなって感じるよ！」など子どもたちの言葉は私たちへの平和や幸せの願いのメッセージではないかと感じました。子どもたちとともに教育や平和について考える場や子どもたちの気づきを大切にできればと思います。

アジア学院だより

アジア学院からこんにちは！

学校法人アジ学院
アジア農村指導者養成専門学校
校長　荒川　朋子

アジア学院は創立４３年目を迎える開発途上国の農村指導者を養成する小さな学校です。「ひとといのちを支える食べものを大切にする世界を作ろう一共に生きるために一」という理念を掲げて、有機農業で自分らの食べるものを生産し、共に食すという人間にとって最も本質的な活動を基盤にして共同生活を送っています。研修と生活は多文化、多宗教、多言語の環境の中で行われ、「イエス・キリストの愛に基づき、公正且つ平和で健全な環境を持つ世界を構築する」ために有用な人材を、生活が非常に困難とされる世界の農村地域に輩出することを目的に事業を続けています。これ

までの卒業生は世界５６カ国に１，３００余名を数えます。今年（４３期）は３３名が１９カ国から招聘され毎日研修に積極的に臨んでいます。

アジア学院が「学生」として海外から招聘するのは、開発途上国の農村地域のリーダーたち、開発ワーカー、宗教指導者などで、農村の状況を熟知し、農村の人々、特に社会の最も底辺にいる弱者の生活を向上するために献身的に働こうとする人たちです。ちなみに今年の３３名の海外からの学生の母国での職業をご紹介しますと、キリスト教の牧師・宣教師が３名、農村開発ＮＧＯワーカー（農業開発指導員、ソーシャルワーカー、事務局長等）が２５名、教師が２名、日本人学生が３名となっています。学生に応募する人は個人では応募出来ず、必ず送り出し団体が必要です。送り出し団体で推薦され、研修後必ずその団体に戻って働くことが義務付けられています。

アジア学院の研修には３つの柱があります。それらはリーダーシップ、持続可能な農業、コミュニティー形成です。この３つの柱の上に、日々の研修プログラムが組み立てられ、９ヶ月間、ほぼ休みなく研修を行います。

途上国の農村で働く学生たちに、選ばれた人とは言え日本に留学をし９ヶ月間生活するだけの経済力を持つ人は皆無です。アジア学院は創設の時から、学生一人ひとりに代わり学生の学業と生活を支えるための奨学金を日本国内や海外の個人や団体から集めています。学生一人当たりの学費は生活費を入れて約１７０万円。奨学金だけで毎年約５，０００万円以上が必要です。これに加え学生の渡航費や学院の運営費も、ほぼ全て個人や団体からのご寄付によって成り立っています。国や地方自治体からの補助金は一切いただいておりません。

このためアジア学院ではボランティアの存在が欠かせません。学院内には多くのボランティアがいて、日々の学院の生活に欠かせない農作業、給食、営繕などの活動は勿論のこと、機関紙の封筒詰め及び発送、古着の整理整頓、募金活動等の活動も全てボランティアの方々に支えられています。皆さんも是非一度アジア学院にいらして下さい。

ＤＢＣ東京目黒クラブ訪問

村田　榮

５月１３日(水)午後１時３０分からの東京目黒クラブの５月例会に出席をしてきました。こんげつはこうしがなく、８月の移動例会(北区しらかば荘、那須クラブとの交流会)と来年５０周年を迎える東京目黒クラブとしての記念会の持ち方、次年度計画について話し合われました。

移動例会については、２日目の８月２７日(木)は、我クラブの田村会長が那須疎水についてのお話・現地訪問、その夜に那須クラブとの交流会を行うことでお話をいたしてきました。

５０周年記念会は、２０１６年の４月または５月に実施する。場所は、東京ＹＭＣＡ東陽町センター、メンバーが少ないために準備等が大変であるとの事でした。那須クラブもＤＢＣとして積極的に協力し、当日は多くのメンバーが参加しましょう。

編集後記

・今月のブリテンの発行が大変遅くなりましたことをお詫びいたします。
・今月号より、アジア学院の現況についての報告を荒川校長に依頼をして、掲載させていただきます。多くの方々のご支援をお願いいたします。
・雨が少なく田畑の稲・野菜等がかわいそうな状況にあります。
・一方、九州地域では集中豪雨があり、被害にあわれた方々の平安を祈ります。
・７月の例会は、とちぎＹＭＣＡ総主事を迎えてのキックオフ例会を予定いたしております。
・前月より、子のブリテンを多くの方々(イースリーダー)に見ていただきたいと考えて、東日本区のホームページのブリテンのページに那須クラブのブリテンを掲載することにいたしました。